

新型コロナウイルス感染から皆さんを守ります ～ 一緒に立ち向かいましょう 我々も全力を尽くします ～

日本各地で新型コロナウイルスが猛威を振るっています。遂に政府が全国に緊急事態宣言を発令する事態に至りました。ここ静岡県、中東遠地域においてもさらなる危機感を持って対応しなければなりません。新型コロナウイルスはひたひたと姿も見えず、音もなく、忍び寄ってきています。国外では感染者、死亡者数ともに増加に歯止めが掛からず、壮絶な状態となっています。国内でも患者数が最多となる東京では収容できる病院が限界に達し、一時的には感染者の受け入れに10時間もかかってしまう事例も発生したようです。現在、軽症・無症状の方のホテルでの療養が始まりつつあります。

感染者がこれほどまでに急増するのは、その多くが軽症又は無症状であることが一因だと言われています。しかし、患者の一部には数時間で急激に呼吸苦が出現し悪化する場合は報告されています。人工呼吸器管理での対応が遅れ、タイミングを失すればお亡くなりになる方もあります。感染者が急増すると重症患者も必然的に増加します。医療体制が後手にまわれれば、結果的に死亡されるケースも多くなります。今、日本ではそのような事態を避けるため、国を挙げての対策が求められています。

現時点では、静岡県内の感染者は50人ほどで、中東遠圏域の患者数も急増しているとは言えませんが、今、徹底した対策を取らなければならないと考えます。

当圏域ではほとんどの感染者は、感染経路が明らかになっています。しかしながら、患者数は確実に増えてきています。広くて人口の多い静岡県ですが、県内の感染症指定医療機関が保有する感染症病床は48床です。既に感染症指定医療機関が満床となり、新たな新型コロナウイルス感染患者さんの入院先を決めるのに時間を要している事例が起こっています。特に患者が増加している地域での受け入れが厳しくなっている状況があります。

中東遠総合医療センターは、感染症病床を有する感染症指定医療機関です。皆様の記憶にもある横浜港での患者発生当初から、新型コロナウイルス感染症に対応してきました。その後も指定病院としての責務を果たすため、中東遠地区はもちろん、他圏域の患者さんも受け入れていくことが求められてきました。中には重篤な患者さんもいらっしゃいますが、徹底した治療・管理を行っており、その甲斐あり、元気に退院されています。しかしながら、新型コロナウイルス感染患者さんを受け入れることで発生する問題も多く存在します。一番の問題は院内感染の危険性です。今、私たちは院内感染を防ぐことに最大限の努力を払っています。感染患者さんの治療には一般の入院患者さんと比べ、非常に多くの医師、看護師な

ど多くの人的資源の投入が必要となります。また、多量の防護用のマスク、フェイスガード、防護服、手袋などの資材、機材も消費します。しかしながら、最も消耗するのは医療者の精神力と体力です。院内感染を防ぐためにも患者さんへの対応には細心の注意を払う必要がありますが、帰宅後も万が一感染させてしまったらという不安と戦わなければなりません。

現時点において当院での院内感染はありません。過日、一時的に院内感染が発生したとの風評が広がりました。当院への受診者は減少し、検査や手術も拒む方もありました。それ以上に辛かったことは、医療者やその家族に疑いの目が向けられたことです。情報は、噂に惑わされずに正確な情報のみを信じてください。感染情報は、静岡県などの公的機関の発表のみを信じてください。すべての職員が昼夜、不安や恐怖と闘いながら患者さんの命を守るために懸命に働いています。地域の皆様におかれましては、是非とも温かく見守り、エールを送っていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

地域医療を崩壊させないため、当院では厳しい感染対策を行ってきています。院内感染には3つのルートがあります。

1. 患者さんによって外から持ち込まれる場合
2. 医療者が外から持ち込む場合
3. 感染患者から医療者、患者さんに感染する場合があります。

重ねて申し上げますが、当院は新型コロナウイルス感染に対して治療する責務があります。そのために不用意な新型コロナウイルスの院内への侵入には非常に敏感になっています。現在、発熱外来、帰国者・接触者外来及びPCR検査を施行する施設を、治療を優先する私たちのような病院ではなく、他施設で行うようにする話し合いが県、保健所、医師会との間で進められています。同時に検査で陽性とされた場合でも軽症者についてはホテルなどで経過を観察するとの話も進められています。ただし、急に悪化することもありますので、定期的な医療的チェックは必要です。悪化した場合は迅速に病院に入院すれば、治療のタイミングを失うことはありません。

最近の診療において困っているのは、症状を隠して受診し、PCR検査を希望する方です。このような方は、まず保健所に電話し、その指示に従っていただくことをお願いします。このような方の多くは今の状況では陰性ですが、陽性者が混じっていると、院内感染という大変な事態を引き起こす原因となります。このような行為は絶対に止めていただきますよう、切にお願いします。

感染リスクを可能な限り減らすため、当院でも職員の県外移動は、全員（私的も含めて）

届け出ていただくようにしています。また、毎日体温測定し、熱のある職員は帰宅するようにしています。院内では新型コロナウイルス感染患者さん（疑いを含みます）と治療者のゾーン区別を明確にしています。さらに、疲労からくる院内感染の危険性を排除するため、感染患者さんへの対応は2つの別々のチームで交代するシステムを試行しようとしています。なお、最も恐れるのは緊急の患者さんで新型コロナウイルス感染が否定できない方の入院、時には手術が必要な患者さんが来院した時です。このような場合は、緊急PCR検査を行い、結果が出るまでは感染者として対応しつつ、入院、手術、検査の準備をします。陽性であれば、新型コロナウイルスに対する厳しい管理と入院治療を行います。さらに過剰と思われるような対応も実施しています。大変ご迷惑をおかけしていますが、入院患者さんの面会は厳しく制限させていただいています。生命に関わるような手術直後の方や状態の悪い方にはビデオ面会ができる仕組みを作りましたので、画面越しで会話していただけます。

緊急事態宣言が全国に発令されたことにより、胃内視鏡検査をはじめとする感染の危険性が高い検査・治療・手術や人間ドック等は延期、または中止をさせていただく可能性があります。

ただし、皆さまが必要とする外来、入院、救急診療、新型コロナウイルス診療は万難を排して今後も堅持したいと考えております。今は、感染対策を優先せざるを得ない事情、また感染させない行動についてのご理解を是非お願いしたいと思います。

今回、敢えて当院の現状、さらには今後に向けての方針をお伝えしたのは、

1. 当院が厳しく院内感染を発生させない方策を取っていること
2. 今後も新型コロナウイルス感染患者さんを救う責任があること
3. 曖昧な情報に惑わされず信頼ある情報のみ信じていただきたいこと
4. 中東遠総合医療センターを信頼し守っていただきたいこと

をお願いしたかったからです。

私たちは皆さんが新型コロナウイルスに感染されても、全力で治療に当たります。静岡県においても、多くの病院が新型コロナウイルス感染に立ち向かっています。私たちの病院では、既に万一の場合に備え一般の病床数を制限しスタッフを集中的に投入する準備とともに酸素投与や、人工呼吸器管理、さらには肺を使用しないで血液に酸素を送り込む ECMO（エクモ）が必要な中等症、重症患者さんへ対応する十分な準備体制を進めつつあります。

中東遠総合医療センターへの新型コロナウイルスの予期しない侵入の防止に皆さん、ご協力をお願いいたします。仮に私たちの医療圏で新型コロナウイルス感染患者さんが急激に増加されても、地域の医療機関と協力しながら、迅速に対応していきます。安心してくだ

さい。軽症の方、疑いの方、濃厚接触者の方は可能であれば自宅で待機しててください。絶対に外に出てはいけません。皆さんが感染を増やさないように協力していただければ、私達も皆さんの命を、新型コロナウイルスを含む多くの致死的な疾患から守ることができます。守ります。

皆さん、一緒に新型コロナウイルス感染に立ち向かいましょう。

企業長兼院長 宮地 正彦